

“わ”ふれあい

KSC 社会還元センター

ふれあい編集委員会

新しい運営を模索して…

外国人との交流懇親会

私たち外国人支援交流部会（D部会）では昨年夏のトンボサミットや暮の交流忘年懇親会など、主として留学生を中心とする外国人との交流会を実施してきました。

しかしこれまでの会合は、ほかに目的があり、例えばトンボサミットでは外国におけるトンボの生息状況について意見を交換するため、外国の人たちを招待して『国際環境フォーラム』を行いました。今後の交流懇親会では開催の目標を定め、運営方法についても、新しく考えてゆかねばならないと思っております。

一般的な状況では、主催者側で会場の設定や飲食物の準備などをして外国人を招待し、プログラムどおり進行した後は「さよなら」ということであります。

これを、今後の交流懇親会からは徐々にゲスト対ホストの関係をパートナーへと切り替えてゆきたいものと考えております。

それには計画の段階から外国人グループ代表の参加を求め、他の人たちにも会場の準備や使用物品の運搬、テーブルの配膳等に協力をしてもらいたいということです。とはいうものの性急に切り換えることなく、相手側の理解を得ながら徐々に進めていくつもりであります。

その第一歩として、出席する外国人側に転職や帰国などが原因で多少の入れ替わりがあったとしても、大部分の出席者が特定されることと、さらに外国人グループを出

身国別などによる小グループに分け、それぞれのリーダーを決めます。部会側も同様の組織を作り、まずリーダー間の連携から入ってゆくことが必要と思っております。

人間は目的を同じくして行動する時には未知である相手にも関心が生じ対話が始まることとなります。これがやがて同志的な気持ちに変化し、さらに友情へと進んでゆくことが多くみられます。

最終的にはこの状況がメンバーの中に生まれてくることを期待しております。

このような考え方のもとに交流懇親会は年間3回程度計画することを予定しております。季節よい時には戸外で、寒い冬には屋内で忘年懇親会を、なお本年第1回目の具体的な計画として、来る4月18日に、しあわせの村の中で外国人側はインドネシア・マレーシア・フィリピン・ガーナ・イラン・ベトナム・中国・ペルー・イギリス・フランス・台湾などの11か国に加えて、さらに外国人の輪をひろげ25人ぐらい、D部会側は30人程度の参加を予定しております。そして18日には初めての試みとして交流会の前半1時間ぐらいは、少し時間をかけて懇親会を行い、相互にこれからのことについて意見を出し合いたいと思っております。

今から美しい桜の花が咲く日の訪れを心待ちしている状況であります。

(D部会・秋津)

新しい運営を模索して	喜びと希望の生き甲斐を
外国人との交流懇親会……………1	今日も明日も待っている……………4
第21回運営委員会／	ボランティアの意気に燃える
第4回地区委員会報告……………2	KSCの諸氏よ来り集い給え……………5
地域活動報告……………2	福祉の心……………6
部会活動報告……………3	車イスを押しながら……………6
ボランティアで	イタリア紀行……………7
喜びと張あいを……………3	兎について千思万考……………8

◎ 委員会だより

第21回運営委員会／第4回地区委員会
合同会議

日時：平成11年1月14日（木）
場所：産業振興センター 904室

1. “わ”の平成11年度における運営の主体をⅡ期生に移管の件。
 - 1) Ⅱ期生の運営委員、地区委員、同窓会役員若干名によって、役員推薦を中心に準備会をつくることとし、人選を委員長に一任。運営委員から4名、地区委員から3名、同窓会から2名の9名で準備会が設けられた。
 - 2) “わ”へのⅢ期生入会のアプローチについては、1月21日のコース代表連絡会において入会登録用紙全数を渡し、各コースに配布を依頼。1階・2階に設置した「入会用紙回収箱」に2月末までに入れてもらうこととした。
2. 『浜風芦屋』1月17日オープンの件。
 - 1) “わ”としては1月22日に福原委員長と藤原委員で、あいさつに行くこととした。
3. 各地区活動の取組および各部会活動の報告があった。（詳細は別記）
4. その他
 - 1) 小島委員から提出の『国際高齢者年』に関する書類を参考にして、“わ”としても今年は何らかのアクションを起こしたい。
 - 2) 1月末にカレッジの新しいパンフレットが出来上がるので、“わ”の活動の具体的内容の書類とともに持参して、2月2日に市役所内で記者会見をするカレッジ側から前田課長と山下係長、“わ”側から5～6人が出席予定。

○ 活動状況報告

1. 地域活動部会
 - 1) 中央区
 - ① 現在2件、続行中。
 - 2) 兵庫区
 - ① “わ”として区ボラセンへあいさつに行った。
 - ② 1月30日、夢野小学校のイベントに参加し、同校の1年生、2年生の児童および幼稚園児たちに人形劇・マジックや邦楽（三味線による童謡・唱歌）等を上演する。
 - 3) 長田区
 - ① 2月1日に全体集会、SC長田と区ボラセンとの連携をよくする。
 - ② 2月13日雪祭に幾人か参加予定。
 - ③ 社協のキッズサポートの手伝い。
 - ④ 1月16～17日新開地復興祭にボランティア参加する。
 - 4) 須磨区
 - ① 組織づくりを行い、リスト完了。4ブロック、各15名前後に。
 - ② 区ボラセンとハートフル須磨を訪問。
 - ③ 受けた情報は全員に円滑に流す。
 - ④ 2月5日、区ボランティア団体のオリエンテーションに参加する。
 - 5) 垂水区
 - ① 区ボラセンから3件（書道指導：女性、話し相手：男性、通学介助）依頼を受けたが参加希望なし。
 - ② 垂水会として地域部会の人数を増やし、ボラセンと話し合う。
 - 6) 西区
 - ① 区ボラセン情報紙に12月18日『のぞみの家』での“わ”の活動記事が掲載された。（数部提供あり）
 - ② 2月28日、3月7日の両日、西区の復興住宅まつりにマジックの依頼があり、C部会活動として空閑義郎氏に依頼し、了承を得た。



2. 部会活動報告

1) A・B部会

- ① 1月8日グリーンスクールへ料理講師派遣。
- ② 1月16日しあわせの村神港園で琴演奏。
- ③ 1月31日サンボホールで行われる震災四周年生活復興フェニックスマーケットに“わ”として、抹茶サービス、琴演奏など参加。

2) D部会

- ① 神戸青年学生センターで、外国人交流忘年懇親会を行い、11か国18人と“わ”会員27人の45人が参加、楽しいひとときをもつことができた。
- ② 外国人交流のために、北島霞先生からワインの会の残金26,351円をご寄付頂いた。D部会の外国人支援積立金としてお預かりした。
- ③ インドシナ難民定住高校生に対する支援金10万円の手続きが2月に完了する。
- ④ 上記①に関しては、その成果を全員が確認。今後はもっと女性会員の協力を得たいとし、今後は年1回あるいは小会合ならば年2回程度してもよい、などの意見もあった。
- ⑤ 次回の交流会は4月ごろに実施するとし、実行委員会をつくり計画をすすめる。時期的には夙川畔の桜見、しあわせの村内の運動場でのパーティーとパターゴルフの組み合わせなども考えられるとし、吉川・秋津・蘆・浦上の各氏に実行委員をお願いすることとした。

◎寄付金の御礼

3月2日、食文化コースより合同交流パーティーにおけるカンパ資金、2300円を“わ”にご寄付賜りました。厚く御礼申し上げます。

(“わ”事務局)

…ボランティアで

喜びと張りあいを…

何年前か、テレビを見ていて、今でも心に残って忘れられない場面があります。それは、ある外国(国名は覚えていない)で一人のかなり年配の老婦人がドアに鍵をかけ、外出するところでしたが、解説のアナウンサーが「彼女は一週間に一度ボランティアをすることで生活に張り目標を持って生きている」と説明をしていました。

彼女はかなり高齢にもかかわらず、身だしなみも、とても整って顔も引きしまり、「今から私は社会に役立つ一員として出かけるところです」という意識が溢れているように見受けられました。

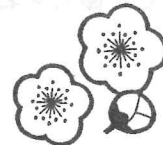
年老いても身体が健康であれば何か^がいつでも社会に役立つことを続けて、生き甲斐のある人生を送るようにしたいものだと思います。いま、人生80年といわれた時代は過ぎ、90年を考えなければならない時代になってまいりました。そうなれば私たち世代のことは若い人に頼ることなく私たちで解決していかなければならないと思います。

私も今、カレッジの卒業生として“わ”に参加し、クループのメンバーとともにささやかながら老人ホーム等の援助にかかわっていけることに喜びを感じています。

現在、神戸市の高齢者総合ケアセンター等では若い職員だけでは手が足りないらしく、私たち“わ”の部会へも援助の要請がきております。メンバーが一人でも多く集まれば月に2回か3回程度のお手伝いで回って行きますので、一人でも多くメンバーが参加してくださることを願っています。

わいわいと皆で力を合わせてするボランティアも自分自身の喜びであって楽しいものだなあと思うこの頃です。

(G部会・後藤慶子)



さあ！ 運ぼう
“喜びと希望の生き甲斐”を
今日も…明日も…待っている

シルバーカレッジの現役時代から、カーボランティアを続けていますが「ボランティアというものは、してやってる—という気持ちを持ったときに、ボランティアでなくなる」と考えてきました。あくまでも自発的に行動することが、ボランティアであり、金銭的な面で見返りを得ることよりも気持ちが満足できることに喜びというか充足感を感じることが大切だと思い、今もその気持ちを持ち続けています。

これまでの活動してきた数例を上げてみますと、

★震災で頭部を強打して意識不明になり、運よく回復したが、自分一人でリハビリ通院できない少女の送り迎え。

★2才の時に障害者になり、40年間施設への行き帰りに付き添っていた母親が高齢になってきたため、代わりに施設への送り。

★震災直後、仮説住宅に入った人に、県が10kgのお米を配布してくれたのを取りに行けない老人に代わって県庁まで取りに行く

★さらにグループ“わ”に参加してからは兵庫区や中央区のボランティアセンターの紹介で障害者を施設までの送り迎え。

★他にも引っ越しの手伝いや市民講座への出席の手伝い。

など、活動範囲と需要はますます広がり、増え続けているのが現状です。

いまカーボランティアをやってくれている人は正式メンバーは数名。“わ”の幹部の方が代打で協力してくれてはいますが、寄せられる多数の需要に応え切れないのが悩みとなっています。

そこでグループ“わ”Gグループのカーボランティア部門としては私たちと一緒に車を運転し、障害者たちの足になってくださる方を求めてご協力をお願いすることにしました。

学校を卒業され、これから大いに自由の身を満喫し、奥さんを横に乗せて、旅行に出ようかと考えておられる方もおいででしょう。また、タバコを買いに行くにも車を走らせていくほど「車好き」の方もおいででしょうが、運転の楽しみを障害者たちと共に味わってくれないませんか。障害者に付き添う家族の人達の苦しみ、施設の職員の絶えることの無い笑顔に触れ、障害者との生活の話しを伺うと、健常者であることの幸せをさらに強く感じるができますし、彼等は決して自分が不幸であると認識していないところに明るささへ感じるができますのです。

昔から、情けは人の為ならずと申します。いずれ私たちも『老齡』の域に達し、若い人のお世話になる時がくるかも知れません。自分が運転しているとき、横道から本道に入ろうとする車があると、あなたは先にその車を入れてあげてください。この気持ちが逆に自分の立場に回ってきたときスムーズに入れてもらえることに繋がるのではないのでしょうか。

カーボランティアをお願いすると、大抵「人様を乗せるなんて危険。もしも…」と拒否されました。“わ”では特別に保険も掛けてくれます。そしてメンバーが多くなればなるほど、活動回数が少なくて済むのです。1日中関わりあってくれとは申しません。往復の往だけでも、利用者は喜んでくれます。どうかカーボランティアのメンバーに名を連ねてみてください。活動については無理なく、都合の良いようにコーディネート致します。

『本当にありがとう。おおいに助かります』と利用者は感謝してくれます。私たちは『当たり前的事をしているのです』と、答えますが不自由な人のお役にたてたことで内心はうれしきで一杯です。「再び学んで他のために」、車を通じて障害者の目線で福祉社会を見詰め、社会還元をしませんか。参画をお待ちしています。

(連絡先：TEL. 743-8100シルバーカレッジ
または TEL. 861-3549 岡 まで)

(G部会・岡 雄)

急告！ 建学の精神に起ち、ボランティアの意気に燃える K S Cの諸氏よ！…来り集い給え。

K S Cの卒業生および在校生各位には、その後もお変わりなく益々ご健勝にて、それぞれの地域において何かとお忙しく、ボランティアに、あるいは学びにお励みのことと拝察致します。

さて、わたしどもは、今、大きな試練に遭遇しており、K S C社会還元センターの使命に係わる福祉活動において、地域貢献とより有効な福祉活動推進に対する地域社会の要請に応えるべく、暗中模索・四苦八苦の状況にあります。

わたしどもの現在直面している状況につきまして、ごく簡単にかいつまんで申し上げます。先月24日特別養護老人ホーム“真愛ホーム”より、わたしどもの中央区地区委員を通じて福祉部会あてに、下記の要請がありました。

1. 入所者の外出介助と話相手
毎週月曜日 2・3名
2. 入浴後のヘアドライ、爪きり、
お肌手入れ
毎週火水金土曜の1日 2名
3. リネン交換時のベッドメイクの手伝い
毎週木曜日 2・3名
いずれもAM10時から2時間程度
- 4 趣味の指導
 - ①書道、手芸、絵画 材料費施設負担
対象者 10～15名以内
 - ②園芸 利用者と一緒に水やりを指導
毎日 1・2名
以上

早速いろいろ手分け致しまして各部署に依頼しスポット的でなく継続的にローテーションが組めるよう、その体制づくりに苦慮し

ております。何とかペアを組んでいただいて、お互いに補完し合うような形でやっていただけたらと願っております。ちなみに真愛ホームの理事長は、シルバーカレッジ今井学長がされています。期待されるわたしどもとしては社会の期待要請に応え、むしろ、わたしども自身の長き体験研修の場として活かそうではありませんか。何卒たとえ1日でも2日でも、どの内容でも結構です。K S Cのボランティアの一人として起ち上がって手をお貸し下さいませんか。神戸市を愛し、神戸市民を愛する諸賢の勇氣ある愛のお申し出を期待しております。真愛ホームは中央区にあり50名おられ、ショートステイで来られる方もいます。

お申し出での方は下記までご連絡ください。

兵庫区菊水町8-4-15 仲田 稔
☎・FAX 521-3753



『福祉の心』

一人ひとりが それぞれに
事情があって…

家の自立再建ができず
仮説住宅で 暮らしてきた 人たち
やっと、災害復興住宅へ
入居できたのです。

鉄扉の内側に

閉じこもりをしないように
外への関心を持つように
“あれあい”を続けることに
意義があると思います。

一年先、五年先…

どうなるか…？ 心配です

住宅の設備、いい部屋に、…

幸せを涙する人！

シルバーカレッジで

福祉を勉強しました。

なまなましいものに接して

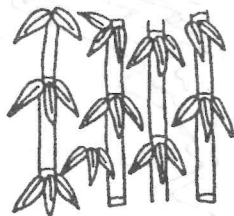
人の生き方に

ドラマがあり…、ロマンがあって！

毎日を喜んでいます。

書き切れるものではありません…と。

(B部会・虫賀成行・パンジーの会、生活復興相談員)



『車イスを押しながら』

きれいな おばあちゃんが
家に 居づらいから
“ほんとは……、死にたいよ…”
言葉が 見つかりませんでした。

私たちボランティアは
その時だけを
お世話したら 心も晴れるけど。

“命が果てるまで
苦しみ続けなければならない”
車イスの人。

この人たちのために
お手伝いしなければ
人間として恥ずかしい
と思う。

“そのために
シルバーカレッジで
学んだのだから…”

(G部会・佐藤・パンジーの会)